

2024 年 1 月 1 日(月・祝)

新しい年を迎えて

3 年間という長きに渡って続いたコロナ禍というトンネルもやっと出口が見えるようになって参りました。この間、授業はもとより家庭学習、オンライン授業、日課の変更、行事の中止や延期、「黙食」、マスク着用など生徒、保護者には大変ご心配とご苦勞をお掛けしました。また、コロナ禍への対応について、医療機関や公共機関をはじめ、皆様のご理解とご協力のお陰で、なんとか困難な状況を乗り越えることができました。改めて、関係するすべての皆様に心より感謝申し上げます。

2023 年を振り返ってみれば、日々の授業に加え、高校 3 年生の大学受験講習、放課後の学習支援 SSR、夏の「A 知探 Q」など様々な体験的学習において、生き生きとした皆さんの取り組む姿勢を感じることができました。さらには、高校 1・2 年生による「探究ゼミ」では多摩市や多摩大学、地域の皆様のご協力と連携により、「路上街なか期末テスト」や他校との「探究合同発表」、多摩大学との AL 祭への参加など、全国的にも例のない大きな成果を上げることができました。これらの取り組みの一部は MX テレビや新聞紙上でも取り上げられました。

また、三大大行事と呼ばれる 5 月の体育祭、9 月の文化祭、12 月の合唱コンクールをはじめとして、ここまですべて行事を滞りなく終え、各委員会を中心とした主体性とクラスや団体の協力と連帯のお陰で充実した達成感と多くの感動を味わうことができました。

この他にも、希望者ではありますが、チェジュ(済州)島での国際フォーラム参加、春のカンボジア・年末のタイでのスタディーツアーなど多くの貴重な学びを実施することができました。さらには、高校生徒会を中心としてテレビのバラエティ番組にも参加するという貴重な経験をすることができました。

年明けには、高校 2 年生の先島(宮古島・石垣島・西表島)修学旅行、中学 3 年生のニュージーランド修学旅行、北京からの学生との交流会などを予定しています。

このような生徒の皆さんの意欲的で、丁寧で熱心な取り組みを讃えます。

一方で世界に目を転ずれば、グローバルな社会の到来、予測のできない世界と言われながらも、パレスチナの問題やウクライナ戦争、アフガニスタンやミャンマーなどを生命の存続に係わる厳しい状況に直面している多くの人々がいます。こうした問題が起こる背景には長い歴史と社会的な問題があり、限られた短い時間に武力にして解決するものではありません。武力による弾圧は「新たな憎しみ」を生み出すことにしかありません。

資源のない日本だからこそ、人という大きな可能性のある資源を活用して平和への道筋をたどることができるのだと思います。皆さんのような若い世代による文化や経済交流、外交こそ解決の糸口です。もちろん卑近なことでは、クラスや学校でも仲間同士、いくつかの諍いはあると思います。解決によって大切なことは多様性を認め合い、相互に理解することです。新年というおめでたい時ですが、寝る前のひととき、一人になって静かに世界の情勢や平和について考える時間をもってみてはいかがでしょうか。

○本校を受験される皆様へ

2月1日から始まる中学校受験、12日の高校受験を予定されている皆さんにとっては、お正月をお祝いする余裕もないかも知れませんが、しっかりとした準備と心のゆとりが大切です。試験日までは試験時間に合わせて生活することが「合格への近道」です。そのためには、規則正しい生活リズムで過ごすこと、十分な睡眠時間を確保すること、栄養バランスの取れた食事を摂ることが大切です。

多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校教職員・在校生一同、心より皆様を応援しています。

校長 石飛 一吉